

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893000246		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 尼崎稲葉荘 (ひまわり)		
所在地	兵庫県尼崎市稲葉荘4-5-10		
自己評価作成日	平成25年1月20日	評価結果市町村受理日	平成25年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2893000246-00&PrefCd=28&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心・安楽な生活の中で、その人らしさをいつまでも持続して頂けるよう、スタッフ一同チームケアを大切に自立支援させて頂きます。
 又、ホームの理念でもある”楽しいわが家”を目指し、家族のようであり、尊厳を守れる明るい居場所でありたいと思っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは住宅地の一角に位置し、道路に面した玄関前には地域の方や子供たちに関心を持ってもらえるよう、ぬいぐるみを利用して行事の案内を掲示するなど、ホームを地域の方に知ってもらえるようアピールしています。「楽しいわが家」でその人らしく暮らして欲しいとの思いを込めた理念の実践は、個々の利用者を尊重しながら、卓球やぬり絵などの趣味や特技を活かし、利用者が楽しめる事を工夫しています。また、月2回、介護相談員が訪れて利用者の思いを聞いたり、家族会やアンケートなどで家族の意見も大切に聞いています。職員は日々利用者の健康管理に気を配り、常に笑顔で接しながら、利用者が安心して暮らし続けられるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と、申し送りスタッフは朝礼時にニチイの”社是”および”経営理念””ほほえみ尼崎稲葉荘理念”である“楽しいわが家”の唱和を行い 共有している。	職員と考えた「楽しいわが家」をホームの理念とし、玄関や事務所に掲げ、毎朝唱和しています。会議や業務ミーティングで理念に沿ったケアが実践されているか原点に戻り、振り返っています。日々のケアは馴れ馴れしい言葉遣いに気をつけながら、楽しいわが家でその人らしく暮らせるよう支援をしています。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し 自治会長 民生委員さん等に運営推進会議に参加して頂き、情報交換している。(利用者様参加もあり)(夏祭り、消防訓練などでは 子供さんの参加もあり)	利用者と散歩する際やホーム前で外気浴をしている時は出会った方に言葉をかけてもらい交流したり、買い物先で出会った方々とは挨拶を交わしています。ホームの夏祭りに子供や民生委員が訪れたり、敬老会に小学生から手紙が届くなど、地域交流が出来るように努めています。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区CM連絡会に参加し情報交換している。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の運営推進委員の方から意見や助言を頂き、ホーム運営に活かしている。	会議は利用者や家族、自治会長、民生委員等の参加を得て開催し、活動や現状などの報告をしています。グループホーム火災のニュースを受けて、夜間の訓練や重度の方の避難について話し合う中で、認知症について理解する事の大切さが深まり、地域に向けた認知症の講師依頼を受けるなど率直な意見交換が行われ有意義な会議となっています。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員の方に運営推進会議に参加して頂いているので 困難事例等を相談していきたい。(GH連絡会に高齢介護課職員の参加あり)	書類の提出に市へ出向いたり、相談事や分からない事などは電話で聞いています。グループホーム連絡会は市担当者の参加があり、市の情報を得ています。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務ミーティングにてマニュアルの周知を行い 正しく理解している。 玄関は施錠していない。	研修やマニュアルで身体拘束をしないケアについて、職員間に周知すると共にミーティングで言葉による制止など、具体例を挙げながら確認しています。ユニットの出入り口は施錠していますが、外の出たい様子の方には職員が付き添っています。開錠できる時間帯を探りながら、閉塞感のない暮らしの支援に努めています。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務ミーティングで充分に全員に周知できている。スタッフ間の情報交換も行っている。利用者様の変化に注意している。	研修で虐待について学び周知しています。ミーティングでは具体例を通して、日々のケアを振り返っています。管理者は職員の様子を見ながら、体調や気分を随時聞き、職員のストレス解消に努めながら、虐待が起こらないように細心の注意を払っています。	

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議にて話し合い 必要性のある方には 支援していく。 (パンフレット回覧あり)	スタッフ会議で話し合ったり、市のパンフレットを回覧して制度について理解できるよう努めています。利用者・家族にはパンフレットを玄関に設置し、市の情報を伝え、必要に応じて担当の弁護士と話し合っています。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者様と家族様が不安に思うことに耳を傾け、納得いくまで話し合いを行っている。	契約の説明は、重要事項の項目毎に時間をかけて説明し、質問にも丁寧に分かり易く答え、納得が得られるよう努めています。重度化や看取りについても指針を基に、ホームの方針を伝えていきます。また加算など変更があった時は、その都度家族会等で報告や説明をしています。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員さんの定期的来所(2回/月)や、行事参加などで利用者様の話しを聞いて頂き、毎回内容・報告をうけて検討項目とし運営に反映している。	来訪時や電話で様子を伝える際になどに意見を聞いたり、アンケート調査や家族会、運営推進会議の中でも聞くようにしています。外出の要望やケアに関する意見が出されており、出された意見は職員間で検討し、ケアに活かしています。外出については検討課題として取り組み、結果は家族に伝えています。介護相談員が月2回ホームを訪れ、利用者の声を聞いています。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で意見や提案を聞くようにしている。個人面談も随時行っている。	職員は日々の業務の中で直接リーダーに意見を伝えたり、スタッフ会議や個人面談で意見や提案を聞いています。シフトに関する意見から、記録の方法を一部改善するなど、出された意見はケアや運営に反映させています。管理者は職員の様子を見て随時個別に意見を聞くこともあります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度の周知によるモチベーションの向上を図っている。 他サービスへの 異動の希望もあれば話しを聞くようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には全員が参加できていないが、業務ミーティング 導入研修 ケアマネ研修 ホームの勉強会等も行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会(討論会・交換研修・勉強会等)に参加して、サービスの質の向上に努めている。			

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人から聞くことは難しい為 家族様にも協力して頂き 出来るだけ 利用者様の思いをくみとり安心して頂けるよう努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の話しを聞く機会を作って 困っていること、不安に思うことを聞き、納得がいくまで回数を重ねて話し合う。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメント時に、生活暦等を把握し、馴染みの暮らしが持続できるよう支援に努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理時の下ごしらえや配膳・味付け、洗濯物のハンガー掛けや居室掃除など、利用者様と共に行うことで共存の意識も生まれ利用者様から意見をいただき、それを次回への改善に活かしている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは利用者様と家族様との仲介役を担い、イベントなどに参加を促したり、生活ぶりや 身体の状態等を 毎月ホーム便りを通してその様子などを報告している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや面会時の案内などより良い支援を心がけている。	友人や知人の来訪時は、場所の提供や話しやすい雰囲気作りに配慮しています。家族と墓参りに出かける利用者の身支度や必要な準備等の支援をしています。また通っていた病院の散歩道へ出かけるなど、馴染みの場所や人との関係が継続できるように努めています。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わりあい、孤立しないようスタッフが仲介してサポートしている。利用者様が一緒になって、ボール運動や体操を行っている。		

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了すると、家族様との連絡も少なくなり、必然的に関係がうすくなっているが電話連絡等がある方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にセンター方式にて情報収集し、できる限り家族様、利用者様の希望・意向の把握に努めている。	入居時の面談で、利用者・家族から生活歴や趣味、暮らし方の希望や思いなどを聞いて、アセスメント用紙に記録し思いの把握に努めています。入居後は関わりの中で得た情報や職員の気づき、利用者の様子などを個人記録に記載して職員間で共有し、把握が困難な時は家族にも聞いています。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に、生活歴やこれまでのサービス利用の経過等をまとめたシートを作成し、これまでの暮らしが持続できるようにしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1度のカンファレンスを行い、利用者様の状態を把握し、センター方式や日常生活支援シートの更新を行いスタッフ全員が共有している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成時に、家族様訪問時や電話等から生活に対する意向などを聞き、取り入れ3か月毎に交付している。	利用者・家族の思いを基にサービス担当者会議を開き、各職員の意見を聞いて介護計画を作成しています。担当職員が毎月モニタリングを行い、それを基にサービス担当者会議を開いて検討し、3ヶ月毎の見直しにつなげています。往診時の情報や看護師の意見も反映させています。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に分かりやすく記録し、特変時など確実に申し送りを行うようにしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容・特別な買い物・臨時通院等随時対応している。		

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しへの参加。 消防士を交え、年2回 消防訓練など行っている。楽団ボランティアも定期訪問してもらっている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様と家族様の希望に応じて主治医を決定し、適切な医療を受けられるように支援している。	提携医以外への受診は家族対応ですが、場合によっては職員も受診支援をし、全員の方が、かかりつけ医の往診も受けています。主治医による往診が月2回、訪問看護師が週2回訪れて健康管理を行い、医師との連携を図り、緊急時も含めて24時間連絡が取れる体制が整っています。歯科や眼科など他の専門医も必要時に往診に来てもらっています。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2回/週 医療連携体制による訪問看護師による体調管理を行っている。訪問時前日までの 体調状況を報告している。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様・医療機関・主治医と連携し、早期退院に向け、カンファレンスを行っている。 お見舞いに行った時に病院よりの情報を収集するようにしている。	緊急入院となった際は利用者につき添って情報を伝えたり、見舞いに行き、早期に退院できるよう主治医や家族と情報交換をしています。退院にあたっては、介護サマリーや電話で退院に向けての情報交換をしています。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族様、主治医と話し合いを持ち、全員で方針を共有し 関係者と共に支援にとりくんでいる。	入居時に重度化の指針を基にホームの方針を説明しています。家族会や運営推進会議でもホームでの看取りについての意見が出され、話し合っています。状態に変化があれば、医師の判断を仰ぎ、医療行為を行わない範囲内で条件が整えば、家族の思いを大切に支援したいと考えています。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故トラブル報告書 ヒヤリハットの共有、活用。緊急時対応マニュアルの周知。業務ミーティング開催。 スタッフは研修等に積極的に受講を行っている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間1名対応時の避難方法は、全員周知している。地域の協力も運営推進会議で呼びかけ快諾を得ている。 年に2度消防署の指導の下、避難訓練を行っている。	年2回、消防署の協力の下、利用者全員や自治会長の参加を得て日中を想定した避難訓練を実施しています。通報や避難場所の確認、避難誘導の訓練を行い、利用者も水消火訓練を一緒に行っています。	今年度は夜間を想定した避難訓練が実施されておらず、職員体制が少ない夜間を想定した訓練を実施されてはいかがでしょうか。

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を守り 常に笑顔と言葉づかいに注意をして声かけ、対応をしている。	接遇研修の中で、利用者の尊重とプライバシーについて学び、欠席者には資料を回覧して周知を図っています。人生の先輩である利用者に、馴れ馴れしい言葉遣いにならないよう注意したり、排泄への声かけや申し送りの際には周りに配慮しています。不適切な対応があれば、互いに注意し合っています。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できない際、家族様に確認し納得して頂くようにしている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせた対応を心がけている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容 1回/月 パーマ、毛染、カット、顔剃り 外出時や行事の時は スタッフがお化粧やヘアセットをしている。同じ服装にならないよう気配りしている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様ができるそれぞれの役割を持ち、見守りながら一緒に行っている。食事職員と一緒に食べる事もあり 食事介助の方には食材の内容を説明しながら支援している。	献立は肉、魚、野菜の日を決め、その日の食事担当者が、利用者に食べたい物を聞いて決める時もあります。利用者は、食材を切ったり、味見や盛り付け、洗い物など出来る事に携わっています。外食や喫茶店に行ったり、誕生日にはその方の希望を聞いて出前をとったり、行事食を屋台風にするなど、食事を楽めるように努めています。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量と水分量を記録し、1日1300mlは摂取できるよう 細めに水補している。水分が摂れにくい利用者様には トロミをつけ 嚥下低下の利用者様には ミキサー食を提供している。(Dr指示)		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い清潔保持に努めている。(歯科往診もあり) 歯みがきは出来ない所は介助を行っている。		

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう誘導している。また、日中と夜間で、はくパンツと布パンツを使い分けている。	個々の排泄パターンを把握し、サインを見逃さないよう支援しています。カンファレンスで排泄について話し合い、情報を共有しながらトイレでの排泄の支援に努めています。夜間オムツを使用の方も日中は紙パンツで過ごしてもらったり、パットの併用等、個々に合わせて支援しています。トイレの場所が分かるように工夫した事で失敗が減った方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取、定期的なトイレ誘導での、便秘予防。水補時にラブレ、野菜ジュース等、便秘により飲物を提供 米に麦を入れたり、朝食にさつまいもヨーグルト等提供。適時腹部マッサージを行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回ペースだが、希望や体調に応じて入浴を実施している。(シャワー浴・2人介助もあり)足浴や手浴を行って 気分転換を図っている。	週2~3回を目途に、日中の時間帯で入浴したい時に入浴が出来るように準備をしています。一人ずつ湯を入れ替え、好みのシャンプーなどその方の習慣を尊重し、季節のゆず湯など入浴が楽しめるよう配慮しています。拒否される方は、職員を変えたり、タイミングをみて声をかけるなど、気持ちよく入浴が出来るよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に音や光が入らぬよう環境を整えているが 眠りの浅い利用者様には 体調にあわせて日中、居室のベッドで休養をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が服用している薬の服薬管理を確実に 行い 症状の変化の確認と主治医への報告に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味 嗜好に合わせた気晴らしの支援を行っている。 お盆拭き、トランプ、オセロ		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンビニ、薬局(化粧品)ユニクロ等買物に行ったり、ホーム周辺の散歩に行くよう支援している。(おいしいコーヒーが飲みたい等希望時は 近くの喫茶店に外食ツアーを実施している)	車椅子の方も一緒に、季節毎の花見や初詣に行ったり、近隣の花壇を見に出かけています。行事で外食に行く時は家族の協力を得て一緒に出掛けています。玄関や駐車場、テラスなどで外気浴をして、気分転換が出来るように支援しています。家族と外食に出かける方もあります。	

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使用することへの支援はしているが頻度は多くない。お小遣いの管理は事務所でやっている。レジ精算時、見守りでお金を支払ってもらう事もあります。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキはスタッフと一緒に書いている。電話の支援も行っている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光が入らないよう、窓やカーテンの開閉をこまめに行っている。また、ホーム敷地内に咲いた花などを花瓶に差し、季節感を採り入れている。リビングの壁面に利用者様の作品を展示している。	玄関先に季節の花を植えたり、和室には雛人形が飾られ季節感に配慮しています。リビングは明るく、採光をカーテンで調節したり、空気洗浄器を置き、温度や湿度の管理がされ、過ごし易いように配慮しています。壁に行事の写真や利用者の作品が飾られ、食事の匂いが漂う中で、テレビを見て過ごされる方や会話を楽しむ方など、思い思いに穏やかに過ごされています。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング横に和室を設け、利用者様と家族様がくつろげるスペースを造っている。(ソファも活用している)		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それまで使っていた家具やベッド、愛着のある生活用品を使用している。家族様や行事等の写真を居室におき、利用者が安心して過ごせる空間作りに努めている。	ベットや椅子、机、鏡台等、これまで使っていた馴染みの物に囲まれた安心して過ごせる居室となるように配慮されています。家族の写真を飾り、ラジカセで音楽を聴きながら過ごす方もおり、その人らしい居室となっています。職員と一緒に布団を干したり、加湿にも気を配り、気持ちよく過ごせる環境づくりを心がけています。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全、安楽で、混乱を招かないようスタッフが見守り声掛けしている。安全や混乱がないように常にスタッフが見守りや声かけをして自立支援を行っている。		